

森の原遺跡発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成23年9月25日

調査要項

遺跡名	森の原遺跡(県番号NO.639)
所在地	山形県村山市大字土生田字道出
時代・種別	縄文時代・集落跡 平安時代・集落跡
起因事業	東北中央道(東根～尾花沢)
調査依頼者	国土交通省山形河川国道事務所
調査機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成23年5月17日から9月30日まで
調査面積	3,650㎡
調査担当者	主任調査研究員 高橋 敏(現場責任者) 調査研究員 向田明夫
調査成果	(9月20日現在)
検出遺構	縄文時代：竪穴住居跡1 土坑 柱穴 竪穴状遺構4 溝状遺構
出土遺物	平安時代：柱穴 井戸跡1 縄文時代：縄文土器・石器・剥片 平安時代：土師器・須恵器



遺跡位置図(1/50,000)

1 調査の概要

森の原遺跡は山形盆地の北端に位置し、村山市北部の最上川右岸、JR 袖崎駅の北方約1.4kmで、大石田コルナクワラの南側に広がる河間低地の自然堤防上に立地し、スイカやさくらんぼなどの畑地となっています。遺跡の周辺は整備の行き届いた美田地帯となっており、黄金色に輝く稲穂が今年も豊作を期待させています。

今回の調査は、高速道路用地のうち本線部分の調査となります。22年度は本線部分に沿って走る取り付け道路部分の調査を実施しました。この調査を第1次調査としており、23年度は第2次調査となります。

調査区は昨年度調査区間の高速道路本線部分約3,650㎡を対象に実施しました。

2 見つかった遺構と遺物

調査区は、近現代のいく度かにわたる田面改修や大規模な場整備事業などにより、大きく削平を受けています。遺構確認面からはバックホーやブルドーザーのキヤタピラの跡などを明瞭に確認することができません。

検出された遺構は、溝状遺構や性格不明遺構のほか、竪穴住居跡1棟、柱穴や土坑など合わせて290基ほど確認されています。多くの遺構は調査区の南側のやや標高の高い部分から見つかります。北側は標高が次第に低くなる状況が確認することができ、見つかった遺構は落ち込みや溝状遺構など少数にとどまっています。

遺構確認作業中に、調査区南側から何方かかた遺物が集中して確認されました。出土した遺物は縄文土器で、遺存状態はあまり良くないものかほとんどでした。また剥片や石鏃も出土しています。

住居跡の可能性も含め掘り下げを行った結果、不整形の円形に落ち込む状況が確認された遺構もありました。また、南端部からは、柱穴が円形に廻り中央付近に直径1m程の土坑と磨石が見つかった遺構があり、竪穴住居跡と推定しています。土坑からは土器がつぶれた状態で出土しています。

調査区の中央部を中心に、砂が帯状に連なる溝状遺構が幾筋も走るのが確認されています。幅は40～100cmほどで、粗い砂が主体となるものや緻密な砂が主体となるものなどが見られます。遺構の性格を検討するために、数か所にトレンチを設定し断面確認を行いました。いくつかの断面では、砂が狭い範囲に集中して確認され粗い砂や細かい砂、緻密な砂が交互にアーチ状に積み重なる様子がみられ、あたかも湧き上がってきたようにも見る事ができます。通常の河川活動によるものか、噴砂や液状化現象などの可能性も含め、今後、詳細な検討が必要です。

柱穴のいくつからは柱の痕跡が確認できましたが、現時点では建物を構成することはできませんでした。

遺物は須恵器や土師器は少量で、ほとんどが縄文土器でした。土器表面の紋様などを確認できる

ものは少数に留まりましたが、時期的にやや古い印象があります。石鏃も数点出土していますが、約3×4cm、厚さ約2mmの薄い板状の石に約2mmの穿孔をした石製品やその未製品もあります。

3 まとめ

今回の調査では、調査区南端部の竪穴住居跡1棟以外は、集落跡をうかがわせるような遺構は、あまり確認することはできませんでした。調査区は遺跡の端だったのかもしれない。今後調査結果を詳細に検討し、地域の歴史解明の資料としていきます。



作業風景 (南西から)



遺構検出状況 (南から)

森の原遺跡遺構配置図



T208断面 南から



T163断面 西から



石製品 (鍾飾品?) SX009



石鏡 SX009



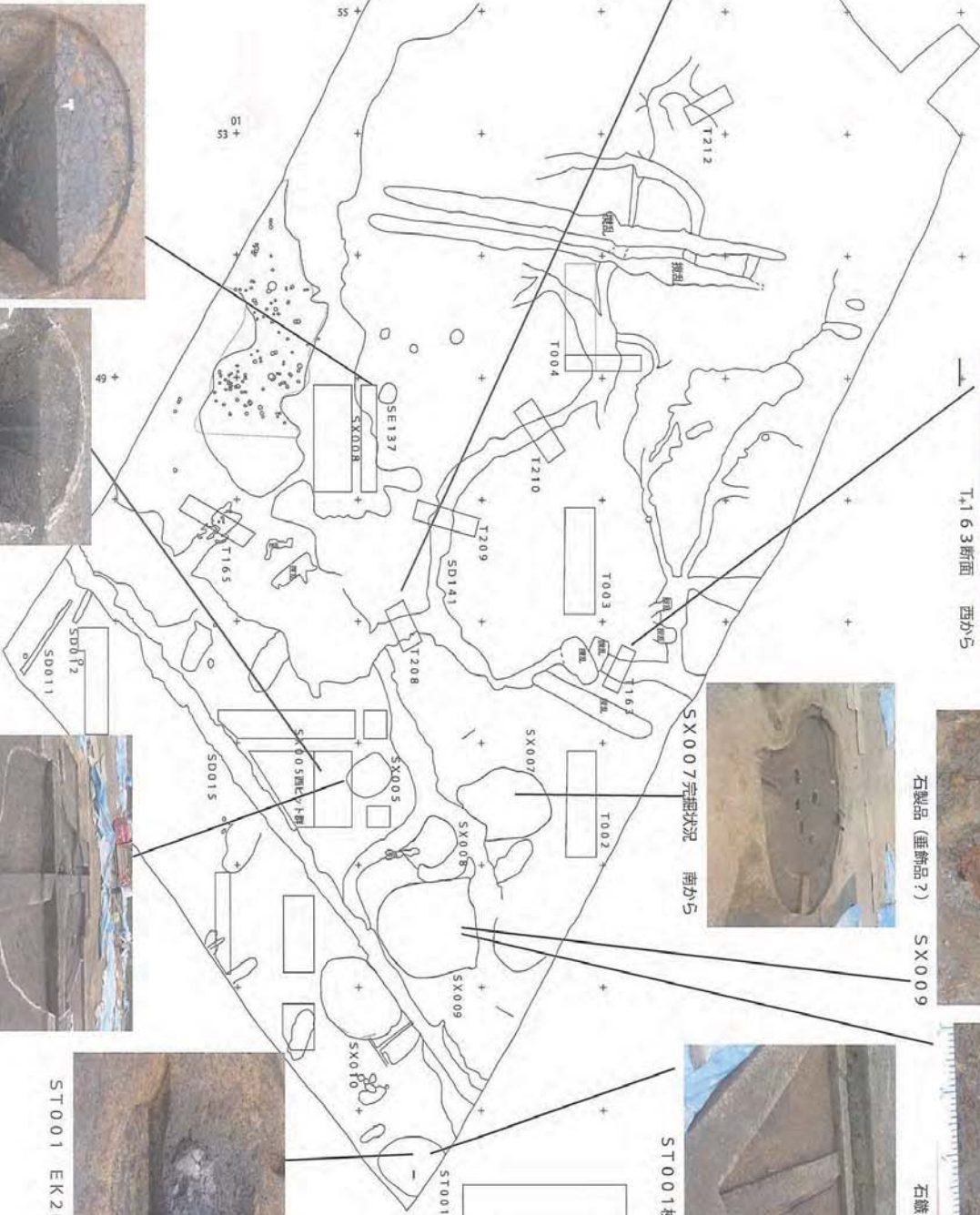
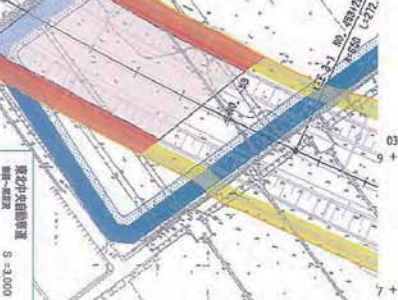
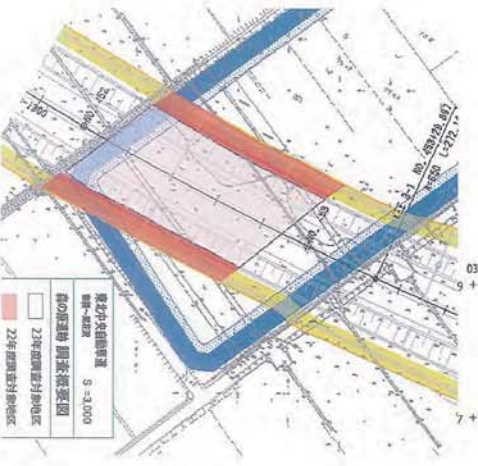
SX007完備状況 南から



ST001発出状況 西から



ST001 EK203 運物出土状況



SE137 断面



柱穴断面 東から



SX005 南北-NWト